

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
22

振興協議会だより

[発行日] 平成28年12月21日
[発行] 苗場山麓ジオパーク推進室
[お問い合わせ] 025-765-1600

立教大学観光学部とともにモニターツアーを実施しました



10月31日と11月1日、1泊2日の日程で、立教大学観光学部交流文化科の舛谷ゼミと連携し、インバウンド(外国からの旅行)を対象としたモニターツアーを実施しました。このモニターツアーの行程は、ゼミの学生が事前に苗場山麓を調査、下見し、考えたものです。参加者は、マレーシアやシンガポール、アメリカに住んでいる方々14人と立教大学の学生12人に舛谷先生

が同行しました。ガイドは公認ガイドのボブさんをお願いし、英語でのガイドを行っていただきました。

初日は、東京からニュー・グリーンピア津南に到着後、ごっつお市へ。地元の食材を利用した昼食で、大変美味しく、品数が多いことが珍しいという感想をいただきました。農と縄文の体験実習館では、苗場山麓ジオパークの概要説明と館内見学を行い、英語表記の解説パネルが必要だとの指摘の音が聞かれました。その後、マウンテンパークからの河岸段丘の展望、龍ヶ窪を見学いただき、沖ノ原遺跡にも寄りましたが、ここでも看板のみであること、また英語表記がないことへの指摘を受けました。

2日目は、石落とし、見倉橋を見学し、かたくりの宿での昼食のあと、ニュー・グリーンピア津南へ戻り、参加者のみなさんは東京への帰路に就きました。ツアー後、参加者にはアンケートを実施し、その結果をまとめたものは、実施報告として提出して頂きました。

全体的に天気と紅葉に恵まれ、自然豊かな部分に感動したとの感想や、食事についても好評をいただきました。かたくりの宿では、前日と食材が同じであってもアレンジされた料理や、炊き立てのご飯が大変好評でした。事務局としては、ガイドをするための語学力、コミュニケーション能力の必要性を強く感じるツアーとなりました。

今回のツアーの実施と報告書を踏まえて、今後の展開を検討し、大学との連携を継続して実施していく必要があります。

上郷小学校3・4年生のジオサイト巡り



11月2日、上郷小学校3・4年生のジオサイト巡りを実施しました。

秋の紅葉が彩り、天気にも恵まれ、結東の石垣田と見倉橋、前倉トドから苗場山を見る展望台を巡りました。

石垣田では、江戸時代の飢饉の話や佐藤佐平治についても紹介しました。石垣田が作られた経緯とともに清水川原の屏風岩、風穴についても知ってもらい、石垣田の石にも触れながら見学しました。そして、結東集落のお堂の階段が、石垣田と同じように柱状節理の石を組み

み合わせて作られていることも気づいてもらいました。今後、このような事例も調査を実施し事例を増やしていく必要があります、子ども達と一緒に探す取り組みも実施していきたいと考えます。

その後、見倉橋を渡り、昨年度整備された前倉トドの展望台から苗場山も見学しました。



苗場山麓ジオパークガイドの会 下仁田ジオパークへ

第2回目のガイド研修は、公認ガイドを対象として、11月27日に下仁田ジオパークへ視察に行ってきました。「まちなか・クリッペのコース」を巡り、ガイドの姿やジオサイトを知ること、また、ガイド同士の意見・情報交換を行うことを目的として、当日は22人の参加がありました。

見学場所として、青岩公園の河床にある青岩(緑色片岩)→クリッペ(根なし山)のすべり面、大桑原の褶曲、下仁田こんにゃくの製粉の水車小屋、川井の断層等、町中のみでのジオサイトを案内していただきました。フィールドで見学する間、雨に降られなかったのは幸運でした。最後は、下仁田町自然史館にて、下仁田ジオパークのDVDを拝見しました。意見交換の後、自然史館2階の展示室を説明していただき、展示については、苗場山麓ジオパークでも大いに参考になると思いました。

また、説明は2名のガイドさんにしていただきました。主には下仁田応援団の高橋敏博さんが行ってくださり、地質的な内容では関谷友彦さんに説明していただきました。参加者からの声にもあるように、高橋さんの説明は、写真や模型等を活用しての明るく楽しい素晴らしいものでした。参考にしていきたいと思えます。



川井の断層を見学

参加者の声

- 実際にガイドさんのお話を聞かせていただき、とても勉強になりました。対応いただき感謝です。下仁田ジオパークガイド養成講座の、コースを決めたガイド研修、模擬ガイド実習の制度は、とてもいいなと思いました。
- 全てが勉強になりました。昼食は、せっかくの機会なので現地のおススメを食べたいと思いました。
- 苗場山麓とは異なるジオパークを見学でき、視野が広がるという面でもよい研修でした。意見交換の場があってよかったです。下仁田町自然史館のような「手づくりの展示」がある、展示づくりができればいいなと思いました。
- ガイドの高橋さんがいろいろな道具を使ってわかりやすく説明してくださいました。昔の写真と現在の写真の比較は興味をそそられました。自分でガイドをやる際には、ネタを多く持ち、対話形式で話したいです。産業遺産に興味があるので、上野鉄道が開通した華やかな時代の話を取り上げて頂きたいところでした。全体的に有意義で楽しかったです。

絵解きジオパーク イラスト:鈴木夏海



快晴の雪景色、青と白のコントラスト。
川で何をやっているのでしょうか？

ジオパーク弁当販売、そして完売！

11月27日、津南小5年生が考案した弁当を十日町駅で販売しました。学校田で自ら作った米や地元特産品、山菜を使って、試作・試食会を繰り返しながら出来上がった「津南のごつつおだ!ジオパーク弁当」です。

観光列車「おいこつと」や「越乃Shu*Kura」の到着時刻に合わせて、役割分担をして販売開始、ホームで苗場山麓ジオパークPRソング「Takaramono」を歌ったり、チランを配ったり、それぞれの活躍があって、見事完売しました。

また食べたい、最高のお弁当でした!



苗場山麓ジオパークのジオサイト

57の見どころを随時紹介していきます

逆巻の川原と猿飛橋



所在地 津南町

種別 地質

当地域で一番古い結東層は、約1,800万年前から1,500万年前の日本海ができ始め頃の地層です。中津川流域の逆巻から小赤沢にかけて分布し、おもに海底火山の噴出物です。逆巻の川原には、千体仏像と形容されるような柱状節理を見ることができます。この柱状節理は貫入岩体の玄武岩です。もともとは、地中に埋まっていたものが、川ができ洗われて露出しました。この下流の左岸にはグリーンタフ（緑色凝灰岩）が露出しています。逆巻の川原には、猿飛橋が架かり、鈴木牧之がその様子を書き残しています。



猿飛橋

魚野川（地質景観）



所在地 栄村

種別 地質

魚野川峡谷は、結東層の硬い岩石で構成され、絶壁が続きます。左岸が岩壁、右岸は原生林です。

川沿いは、結東層の変質火山岩（グリーンタフ）でその堅い部分が大小多くの滝をつくっています。岩菅山の八合目付近から上は、板状節理のある黒色の安山岩溶岩です。この安山岩は高井火山岩類とよばれる中新世後期（約550万年前）の火山岩です。渋沢より奥の魚野川源流地域は「森林生態系保護地域」の「保存地区」になり、入山が規制されています。魚野川沿いは「保全利用地区」で面積は約1万ha、本州第2位の森林地帯となる見事な原生林です。

●サイト名となっている魚野川について

『栄村史』（S39）ほか書籍記述などから、「雑魚川」と「魚野川」が合流して「中津川」になると読めること、また歴史的に「切明」より「中津川」となるとみなされていたと考えられることから、切明以南を魚野川とみなし当ジオサイト名称を設定した。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。

平成28年度 フィールドでのジオサイト巡りを振り返る

ガイド養成講座は3年目の今年度、「ジオサイト巡り」と改称し、全12回のうち9回を終了しました。第1回で今年度の計画を示した後、第2回から第8回までの7回は、フィールドでのジオサイト巡りを実施し、延べ142人の参加者がありました。ジオサイトの数では、延べ25箇所、そのほかジオサイト候補地など15箇所を巡ることができました。

開催回	開催日	内容	巡ったところ	参加者数
2	5月28日(日)	モデルコースを巡る(コースA)	マウンテンパーク、龍ヶ窪、石落し、見玉不動尊等	28
3	6月19日(日)	ジオサイト周辺の植物・動物たち(初夏)	シシ穴、石垣田、猿飛橋、ニュー・グリーンピア津南散策路等	21
4	7月9日(日)	モデルコースを巡る(コースB)	山伏山、中条川崩落地形、常慶院等	22
5	8月21日(日)	モデルコースを巡る(コースC)	切明、布岩山、前倉トド等	22
6	9月17日(日)	天代のローム層、爪石のふるさどを探る	長瀬新田遺跡、天代、中野等	23
7	10月23日(日)	ジオサイト周辺の植物・動物たち(秋)	逆巻〜トレッキングコース、鳥甲牧場等	11
8	11月12日(日)	川原の石及び菅沼の不思議を探る	清津川・菅沼、野々海池等	15

今年度のジオサイト巡りでは、ジオサイトの案内や紹介を分担し、認定ガイドのみなさんがガイドの実践を行いました。また、参加者から感想や意見を書いてもらい、今後のジオサイト巡りにおける運営上の課題や問題等の改善に生かしています。ガイドの実践を行った認定ガイドのみなさんからは、「もう少し、下準備が必要だったかな。」とか「他の認定ガイドの説明がすばらしくて大いに参考になった。」といった言葉が聞かれ、改めて「実際にガイドをやってみる」ことが重要だということがわかります。



ガイドのリハーサル中



フィールドにて

12月から3月までは、座学で苗場山麓ジオパークのジオ・エコ・カルチャーにかかる魅力や特徴等を中心に、今年度のまとめを取り入れて実施する予定です。次回は1月13日(金)18:30からなじよもんで行います。興味関心のある方は、ぜひご参加ください。

第2回苗場山麓ジオパークフォトコンテスト 作品募集中!

苗場山麓ジオパーク振興協議会では、第2回苗場山麓ジオパークフォトコンテストの作品を募集中です。部門は、「一般部門」と「スマホ・タブレット部門」です。

- ★応募者本人が撮影した未発表の作品に限ります。ご応募の際、作品の解説(200字以内)を付けてください。
- 画像データでの応募・・・容量15MB以下で、ファイルサイズ300万画素以上のJPEG形式のものとします。苗場山麓ジオパークWEBサイト内のフォトコンテストのページよりご応募ください。
- プリント作品での応募・・・2L(127mm×178mm)か同等以上のサイズの作品で、裏には、苗場山麓ジオパークのWEBサイトから印刷し、記入した応募票を貼付してください。

作品の発送はこちらまで⇒

〒949-8201
新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡乙 835
苗場山麓ジオパーク振興協議会事務局 ジオフォトコンテスト係

※返却を希望される方は、返却先を明記した着払い伝票等を同封のうえ、該当作品に「返却希望」と朱書きしてください。

応募締切・・・2017年1月31日(火)17時(郵送の場合は同日必着)

入賞した作品の著作権及び版権は主催者に帰属します。

詳しくは、チラシ、または「苗場山麓ジオパーク」で検索していただき、WEBサイト(<http://www.naeba-geo.jp/org/>)をご覧ください。お問い合わせは、苗場山麓ジオパーク推進室内フォトコンテスト係(電話025-765-1600)まで。

苗場山麓ジオパークのジオサイトを中心とした、景観や自然、里山の暮らしなどをテーマにした作品をお待ちしています。

絵解きジオパーク その答えは

切明は、地質学的には北部フォッサマグナ地域で中新世以降石英閃緑岩の貫入など著しい変形を被った場所です。川底から、カルシウム・ナトリウム塩化物・硫酸塩泉の、約56℃の温泉が湧き出ます。スコップで自分の湯船を掘り、入ることのできるすてきな温泉です。江戸時代、鈴木牧之が訪れた時は「湯本」と呼ばれていましたが、1847年の善光寺地震で起きた崩落の影響で堰止湖となってしまいました。その後、松代藩の佐久間象山が訪れ、崩落地を切り開いたことから「切明」と呼ばれるようになったといいます。